



産業用部品から芸術品まで  
熟練の技が支える加工技術

設立	昭和51(1976)年
資本金	300万円
本社所在地	久留米市田主丸町豊城482-1
代表取締役	代表取締役 江口 聖二
従業員数	4名
事業内容	へら鉸り、特殊溶接、NC旋盤



# 細かなこだわりを忠実に 完全手作業の「へら鉸り」

## 多品種少量生産が可能

「へら鉸り」とは、金属の円盤を鉸り機に取り付け、回転させながらへらと呼ばれる棒を押し当てることで少しずつ変形させて製品をつくる加工技術のこと。金属の塑性力を加えることで形を変える物質の性質を利用した製法で、全体的にも珍しい特殊技術です。

創業者は、へら鉸りを東京で修業し習得。昭和50年に田主丸で創業しました。雄型と雌型を必要とするプレス加工に対し、へら鉸りには雄型のみで加工ができるため、製造コストが抑えられることが特長。最初から最後まで完全手作業なので、多品種少量の生産に向いています。

## 特殊な一点ものも、熟練の技で

製作するのは、各種産業用部品のほか、鉄板やタクトなどの飲食店関係の部品など。中には芸術関係の依頼もあり、依頼主も企業から個人まで多種多様です。各所に問い合わせて不可可能「われこつ」形状の加工ができます。現在、熱伝導率がよく、業務用調理に必要な熱量を短時間で確保できるIH対応のステンレス鍋を開発。製作には特殊な鋼材と加工技術が必要であり、へら鉸り技術があるからこそ実現できる新製品に期待が寄せられています。

へら鉸りの技術により作成された製品



伊藤産業株式会社は、昭和21年現社長の祖父が出身地の三重県桑名市と久留米市で創業したのが始まり。当時は桑名の家庭用調理用品を久留米で販売し、桑名では久留米餅等を販売していました。プロパンガスが普及する、鋳物コンロの販売を掛け、その後、2代目である現社長の父が、厨房機器の販売という新分野に進出し、それが現在の業務につながっています。

# 「温故創新」 飲食店のトータルサポートへ

## 厨房機器取り扱いに進出し成功

製造の他、取り扱っている業務用厨房機器や部品は、新品から中古品まで多岐に渡り、お客様の予算に応じた対応が可能です。

「新品も中古品もさまざまなメーカーのものを取り扱っており、また、厨房設計から設置・メンテナンスまで幅広いサービスが当社の強みです」と、3代目の伊藤社長。これまで居酒屋、ラーメン店、焼き肉店を多数に渡るジャンルの飲食店に納入実績があります。

## 鋳物コンロ製造は今も九州唯一

鋳物コンロについては現在も九州唯一のメーカーです。長年培った海外鋳物メーカーとのパイプも強み。相談を頂ければ様々な商品の製造や仲介ができます。伊藤社長、国内の鋳物メーカーは減少傾向にあり廃業したメーカーの製品に關して相談を受けることも、設計書がなく現物のみの場合も多い。二次元測定機と三次元CADを駆使して、設計や製造に取り組んでいます。

「今後はこれまで培ったネットワークと業務経験を活かして、飲食店開業の物件探しや資金調達まで、トータルサポートを手がけていきたいと考えています。2代目社長の先見の明から始まった事業は、ますます広がりを見せています。」



九州で唯一の鋳物コンロメーカー



鋳物コンロ 2Sコンロ KP-2S

設立	昭和42(1967)年
資本金	3,000万円
本社所在地	久留米市梅満町74-1
代表取締役	代表取締役社長 伊藤 晴輝
従業員数	25名
事業内容	業務用厨房機器、食器等の販売、鋳物コンロ、ガス器具等製造

公式サイトはこちら!





## 建設機械シリンダー加工国内トップシェア 機械部品再生のプロ集団



# 新品を超える寿命を生む 硬質クロムめっき技術

**機械部品を再生する独自技術**  
株式会社東洋硬化は、硬質クロムめっきを使用し独自の技術で、ステンレス、アルミニウム、銅などの各種金属で作られた機械部品を製作するほか、摩耗した機械部品の修理再生を手がけています。  
硬質クロムめっきは、タイヤモントに次ぐ硬さの皮膜を付けることができ、再生品に使用すると、摩耗した機械部品に新品を超える寿命を与えることができます。金型な

ど、簡単に交換できない希少価値の高い部品に硬質クロムめっきを施すと、再生だけでなく離型性や耐摩耗性を向上させることも可能。現在、取引先は1000社を超えます。注文の6割が再生依頼に関するもので、うち7割は建設機械のシリンダー再生加工です。この分野では、国内トップシェア。そのほか、バイク用インナーチューブ再生も国内トップシェアを誇っています。

**一品一様の再生加工を表現**  
創業は昭和35年。当初はトラック用部品。その後、農用機械部品や自動車、建設機械部品などの製造・販売を主としていましたが、20年程前リサイクル時代の到来を見越して、めっき表面処理による機械部品の再生加工、メンテナンスを主体とする企業に転換しました。硬質クロムを自社で製造し、機械部品の製造や修理まで一貫して行う企業は、全国で珍しい存在です。  
ステンレスに硬質クロムめっき加工を施すオリジナル技術も強みです。再生する品が一品一様であるため、再生品ごとに違う工程で作業をする必要があり、その積み重ねで蓄積されたノウハウも力です。全国のものづくりの現場を、「部品再生のプロ」として支えています。

公式サイトはこちら!



Before



After



## 工場内搬送に使われる 「特殊仕様ラック」シェアNo.1



# 「噛みあいの良い関係づくり」 多様な現場で活躍するギヤを生産

**ワンストップで一品一様生産**

株式会社古賀歯車製作所で作られる歯車(ギヤ)は、水門、建設用エレベーター、モノレールなど様々な場所で使用されているほか、種子島宇宙センターのロケット組立棟の一部にも採用されています。

当社が得意とするのがラック。歯車と同じ歯をまっすぐに板に刻んだので、歯車と組み合わせて回転運動と直進運動の変換に用いられます。

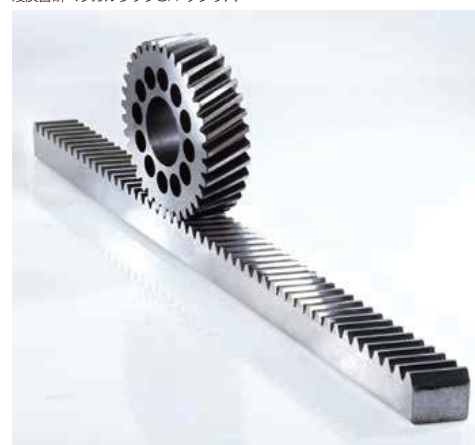
ラックは、工場内の搬送機に使用。ロボットや半導体向け小型超精密ラックから、製鉄や造船業向けの超大型ラックまで、幅広い分野で利用されています。現在、特殊仕様のラック生産においては国内トップシェア。また、お客様の要望に沿った一品一様のギヤ生産ができることも強みです。中でもこれまでの経験、知識、技術の集大成となす自社オリジナル「浸炭歯研ヘリカルラック」は騒音、振動などを減らし、剛性、強度を高めた商品です。同じ直動機構の「フーパー

ルねじ」と比較しても同等以上の位置決め精度を実現でき、かつ高速稼働が可能である事が利点です。

### 自成長の場を積極的に創出

ギヤのプロフェッショナルとして「噛みあいの良い関係づくり」が経営理念。社員一人ひとりが高い志を持ち、仕事を通じて切磋琢磨しながら、技術や人格を向上させる。そのことで、人はもちろん業務ともうまく「噛みあった」環境づくりに取り組んでいます。古賀社長、技術・品質向上や、他社の成功事例から学ぶ勉強会など、社内教育にも力を入れ、社員の自成長の場を積極的に創出。次世代を担う若手人材を育成し、独自技術をさらに磨き、世界一の製品づくりを目指しています。

浸炭歯研ヘリカルラックSR・ザグリA



設立 昭和60(1985)年  
資本金 1,000万円  
本社所在地 久留米市荒木町荒木1964-5  
代表取締役 古賀 俊宏  
従業員数 58名  
事業内容 各種歯車の製造・販売  
受賞歴等 平成23年経済産業省「IT経営実践認定企業」/平成23年全国中小企業振興機関協会「情報化優良企業表彰」(中小企業庁長官賞)

公式サイトはこちら!





# 製造業を支える金属卸 材料品揃え日本一

設立 昭和61(1986)年  
 資本金 3,000万円  
 本社所在地 久留米市津福本町2348-29  
 代表取締役 松本 正二郎  
 従業員数 80名  
 事業内容 金属材料加工、卸、販売  
 受賞歴 平成26年経済産業省「IT経営実践認定企業」

公式サイトはこちら!



# 必要な時・必要な数量を 「フィル・トキイル・ダケ」

**5万点以上の金属材料を扱っ**  
 通常、金属卸業者は、取り扱った材料の種類が決まっており、製造業者が注文する場合、材質によって別々の業者に発注しなければなりません。  
 そんな顧客の悩みを解消したのが株式会社松本商店。様々な金属材料を取り扱っており、お客様は当社に注文するだけでほとんどの材料を揃えることが可能です。顧客の松本商店、キャッチフレーズは「フィル・トキイル・ダケ」。

## 部品加工・特殊加工で 製造業をサポート

「必要なのは切り売りも可能なので、お客様は在庫管理も不要です。」  
 取り扱った金属材料は5万点超。品揃え日本一です。  
 社では、金属材料の切断加工だけでなく顧客の要望に応じて様々な部品加工も行います。スプレッド(穴)加工商品に着手したのには20年程前。この難削材のステンレスは加工

に高度な技術を要するため、当時、九州にステンレスの特殊加工を行う会社はほとんどありませんでした。そこで当社は、九州でいち早くステンレスの特殊加工を手がけました。今では全国でトップクラスの生産量を誇ります。それまで同商品を遠方から取り寄せるしかなかった九州の事業者は、当社に注文することで、納期・コストを大幅に改善できたのです。  
 金属材料に関する顧客のあらゆる「困りごと」を解消するのが同社のモットー。品揃え、管理加工、出荷の全てに、金属材料一筋の経験に裏打ちされたノウハウが詰まっています。必要な材料を必要なタイミングで供給。松本商店は、製造と生産管理の両面で製造業をサポートしています。



**技術に裏つけられた  
付加価値が強い**  
 戦後間もない昭和23年、佐賀県三善町で自転車リサイクルのめっき工場として創業した平井鍍金のめっき工業株式会社。ものづくり企業が集積する久留米市に移転後は、農機具部品や電機部品などを幅広く手掛けるようになりました。  
 めっきは、自動車や家電製品などの身近なものに必ず使われています。同社では、主に電気め

っき技術で、ものづくり企業を支えています。電気めっきは、電気エネルギーによって溶液中の金属イオンを還元し、素材に被膜を形成させる方法。自動車部品や産業用機械、農機具、建築機材など幅広い分野で必要とされます。鉄や鋼、SUS材に、耐食性・裝飾性などの付加価値をつけることができる。久留米市リアテックの電気めっき技術を持っていての自負しています。平井社長、九州のめっき会社として、いち早く大手自動車関連メーカーと取引を開始。また、国内では社



# 自動車業界からも 厚い信頼

## 新たなめっき工程にチャレンジ

最近の自動車業界では、燃費向上を目的として車体に使用する鋼材が年々薄く、硬い高張力鋼になってきています。高張力鋼は、めっき加工が非常に難しく、従来の工法では本体が破損しやすいという欠点があります。今後この分野にチャレンジし、新たな工法を確立したいと考えています。平井社長は語ります。

# めっき技術で、 日々の暮らしを支える



設立 昭和55(1980)年  
 資本金 1,000万円  
 本社所在地 久留米市津福本町字南津留2348-17  
 代表取締役 平井 正秋  
 従業員数 30名  
 事業内容 電気めっき、亜鉛めっき、ニッケルめっき、スズめっき、裝飾クロムめっき、電解研磨

公式サイトはこちら!





# 「快歩主義」 健康・快適シューズ市場No. 1

※2012年度シューズポスト紙調べ

設立 大正7(1918)年  
 資本金 8億4,000万円  
 本社所在地 久留米市洗町1  
 代表取締役社長 佐藤 栄一郎  
 従業員数 800名  
 事業内容 ゴム履物・革靴の製造、販売  
 受賞歴 平成28年福岡県産業デザイン協議会「福岡デザイン  
 アワード」(優秀賞) / 平成30年経済産業省「地域未  
 来牽引企業」他

公式サイトは  
こちら!



# 「靴」を通じて 日本の健康づくりに貢献

## 復活のシンボル「快歩主義」

同社の始まりは明治25年創業の仕立物業志まやです。大正7年に日本足袋株式会社が発足され、地下足袋に「コ底」を貼り付けた「アサヒ」特許地下足袋を発売、作業現場で働く人々に入念を申しました。昭和12年、日本ゴム株式会社と社名変更し業界トップになりましたが、業績が悪化。立て直しを図る中で生まれたのが「シア向けシューズ」快歩主義でした。これは高齢社会に向けた「シア」のニーズを徹底的に考えて生まれた靴。開発当時

## 世界初の機能を持つ 「アサヒメディカルウォーク」

続いて生まれたのが、「アサヒメディカルウォーク」です。これは、開発部門の社員が変形

は「シア」向けの製品はあまりありませんでした。と、谷川管理本部長。価格は高めてはしたが、国内生産があることや優れた機能面を前面に打ち出し、会社を挙げて全国を地道に営業行脚。平成12年に発売開始以来、900万売上げを記録。アサヒシューズ再建のシンボルの商品となりました。

性ひき関節症と診断されたことがきっかけ。ひざのトラブルを予防できる靴をつくることと決意し、医師や大学教授の協力を得て開発に着手しました。歩く時のひざの回旋運動が、加齢とともに不安定となる。ことに着目。試作と失敗を繰り返し、苦勞の末に、ひざの回旋運動をサポートする機能を持つ「スクリー」を取り付けた靴「アサヒメディカルウォーク」が完成しました。これには、世界初の特許登録商品としての機能「SHM」機能を搭載しています。スクリーの色は、アサヒ「朝日」にちなみ、オレンジ色に統一。一目で「アサヒメディカルウォーク」と分かるように工夫。また、お客様に正しく製品を説明できる店舗でのみ販売とするというブランド戦略で、着実に世の中に広まっています。

快歩主義&アサヒメディカルウォーク



# 安全・高品質の 「学び環境」をひらく

## 全工程を一貫して社内

三原機工株式会社は、昭和28年に創業した国内唯一の教育用机・椅子の専門メーカーです。創業当初は金属加工の会社として農機具を製造していましたが、昭和40年代初期、学校机がオール木製から金属を用いるようになり、市場性を見出して参入。

現在では、北海道から沖縄まで、全国の小中の学校、幼稚園、専門学校など幅広く使わ

れており、九州内のシェアは7割近くになります。おそろしく大半の方は、学生時代、同社の製品を使っていたのではないのでしょうか。

創業から半世紀余り、次代を担う子どもたちのために努力を続けてきた同社。学校の机や椅子は、子どもが一番身近なものとして使う家具であるため、安全性と品質に最も配慮してきました。

取引先への営業から、製造も原材料の加工、溶接、塗装、組み立てに至るまで、全て同社が

## 従業員一丸となり 安全・安心を提供

同社では、担当する作業を定期的にシフト。職人育成ではなく、会社組織としての従業員が製造しても、同じ品質の商品を提供できるよう注力しています。また地元の高校、大学特別支援学校からの新卒者採用を積極的に行っています。

お互いに助け合いながら成長し、一人ひとりがまっすぐに働ける職場環境を整えています。



# 国内唯一 教育用机・椅子の専門メーカー



三原機工の製品[MD4560, MC-A]

設立 昭和28(1953)年  
 資本金 1,000万円  
 本社所在地 久留米市荒木町荒木1978-2  
 代表取締役社長 柴田 耕治  
 従業員数 56名  
 事業内容 教育用机・椅子等の製造販売

公式サイトは  
こちら!





## 業界初VOCを排出しない 接着剤フィルムの開発



設立 昭和43(1968)年  
 資本金 5,000万円  
 本社所在地 久留米市津福本町上津留2305-10  
 代表取締役 中島 幹雄  
 従業員数 16名  
 事業内容 工業用ゴム製品の開発・設計・加工

公式サイトはこちら!



# 下請けから提案型企業へ イノベーションを核とした挑戦

**下請け脱却へ研究開発に活路**  
 昭和33年、自動車部品メーカーの下請けとしてスタートした中島ゴム工業株式会社。その後、取引の幅を広げ、各種産業機械等や大手カメラメーカーにも製品を供給。特にシシカメのクリップ部品は国内有数のシェアを誇っています。  
 着実に実績を重ねてきた同社ですが、中島社長は「将来に向けて、価格競争は避けられない。特に自動車産業は競争の激しい業種。この世界で生き残り、社員に誇りを持ってもらうためには、自社のオリジナル製品が必要になる。」

## オリジナル製品の開発と 新たなチャレンジ

そこで積極的に研究開発に着手。平成27年、金属ゴムを接着する業界初のツール、加硫接着剤フィルムACULAHを生み出します。従来のスプレー式接着剤に比べて接着工程の簡略化、接着性能の大幅アップ。従来の10倍の強度を実現。またVOC有機溶剤を出さないため環境にも優しい製品です。

環境にも優しい製品です。環境対応に敏感な欧州の自動車メーカーには既に納品済み。今後国内自動車メーカーにも事業展開したいと考えています。  
 この技術は、経済産業省戦略的基盤技術高度化支援事業に採択・支援を受けたもの。もちろん補助金も有り難かったが、これを機に産学官連携のチームができたこと、また、我々の挑戦を国が後押ししてくれた、社員のモチベーションが格段に上がったことが何より嬉しかったと中島社長。現在、地元のコム会社や研究機関、行政と協力し、水素ステーションや燃料電池用のゴムパッキン等の開発を目指しています。イノベーションに終わりなし。研究開発型企業に見事に進化した姿がここにあります。



## 裏布付きフルコート天然ゴム手袋 国内トップシェア



# 「作る」から「創る」企業へ

## 海外まで生産拠点を拡大

戦後間もない昭和22年、靴製販売大手メーカーから創業者が独立、作業用手袋の東興商会後の東和コーポレーションを創業しました。その後、高度経済成長の波に乗り、国内だけでなく海外でも同社製品が広く使われるようになりまし。

現在は生産拠点を佐賀工場(東部)・上峰町工場のほかマレーシア、中国(上海・パンフ

ラテシユ、アメリカ販売会社)などの海外へも進出を果たし、今では手袋業界トップクラスに。特に「裏布付きフルコート天然ゴム手袋」は国内トップシェアを誇ります。

## 「トワロン」で国内市場を席巻

東和コーポレーションを代表する製品は、昭和43年に、自社開発したゴム手袋「トワロン」です。ゴム手袋は「かたくて丈夫が常識」だった当時、やわらかい・動きやすい・臭いが

しない「トワロン」は、ゴム手袋の常識を覆す「万能選手」として国内市場を一気に席巻。ロングセラー商品として平成30年に、発売50周年を迎えました。同じく連載開始50周年のあったの「ジョー」と「グローブ」。つなかりで、タグを組んだ限定商品も発売。大きな反響を呼んでいます。また、農林水産省の「農業女子P」にも参画し、女性農業従事者の意見をとり入れた新商品にも力を入れています。  
 「新しい価値を生み出す会社でありたい。技術に裏打ちされたものであれば簡単に真似されません」と池本広報部長、チャンピオン企業となつても挑戦者の気持ちは変わりません。従業員のあふれる活力と豊かな想像力で「作る」企業から「新しい市場を創る」企業に進化しています。

「あしたのジョー」とコラボしたトワロン



設立 昭和22(1947)年  
 資本金 5,500万円  
 本社所在地 久留米市津福本町227  
 代表取締役 渡辺 聡  
 従業員数 171名  
 事業内容 家庭用・工業用・作業用、各種ゴム手袋の製造・販売  
 受賞歴等 平成19年「グッドデザイン賞」/平成27年特許庁「知財功労賞」(産業財産権制度活用優良企業等)/平成29年福岡県産業デザイン協議会「福岡デザインアワード」他

公式サイトはこちら!





100席以上の民間航空機用タイヤ  
世界トップシェア



ブリヂストンの航空機用タイヤ

# 久留米発祥 世界No.1タイヤメーカー

**久留米工場は「マザープラント」**  
26カ国に100もの製造・開発拠点を有し、世界のタイヤ市場においてナンバワンの地位を占めるタイヤメーカー「ブリヂストン」の誕生の地は久留米です。久留米工場はブリヂストン最初のタイヤ工場として、これまで様々なタイヤ製品を開発・製造し、世に送り出して来ました。世界的な企業に成長した今でも、発祥地にある久留米工場は中核の一つ。

にお招きして、当社への理解を深めて頂くこともありますが、語るには「羅漢総務部長」です。久留米工場は、創業者石橋正二郎の考え方や企業理念を学べるマザープラント。海外工場の外国人幹部も含め、重要な研修・教育も久留米で行っています。

## 高度技術を要するタイヤを久留米で製造

現在、久留米工場における主力製品は、航空機用タイヤと小型トラック用タイヤ。特に、過酷な

条件下で使用される航空機タイヤの製造には高度な技術が求められる製造できる企業は世界でも限られています。ブリヂストンはその数少ないメーカーの一つであり、100席以上の民間航空機では世界で40%のシェアがあります。また、すり減った航空機用タイヤの表面部分を張り替える利用（リトレッド）も行なうため、新品リトレッドタイヤの提供に加え、データを基にした運行管理や機体整備、在庫管理などのソリューション事業にも力を入れています。

久留米工場の全景



更生タイヤのトップメーカー



# 品質を重視し 循環型社会に貢献

## 安全性と耐久性を見極める目

日米ゴム株式会社は、戦後も有名な大手ゴムメーカーを退社した石丸忠重氏が、国鉄貨物車輜および国鉄バスの更生リサイクルタイヤ製造を目的に創業しました。昭和30年、更生タイヤ工場としては日本で最初にJIS表示認定工場となりました。

更生タイヤとは、古いタイヤの表面を削り、新しいゴムを貼り付けて製造するものです。安全性や耐久性の高い「台タイヤ」を見極める力が当

## ゴムの新たな可能性を追求

社の強み。また、タイヤメーカーごとに異なる形状に対しても、それぞれの特徴に合わせて更生可能な技術とノウハウを有しています。そのため、日米ゴムの更生タイヤは、安全性・耐久性の費用対効果が新品と比べても遜色ありません。また、リサイクルしているため、環境にやさしく低コスト商品でもあります。

現在の主な事業の柱は、トラックやバスなどの業務用更生タイヤ部門、糸ゴム部門（おもつ用や衣料用など）、工業用部門（防振材な

ど）。これらの3本柱で、さまざまな顧客ニーズに幅広く、かつ柔軟に対応できるのも強みです。

近年では大手タイヤメーカーも更生タイヤを取り扱うようになったため、競争は厳しさを増しています。同社では、このような市場の変化に対して、新たな取り組みも始めました。現在、九州大学と協力企業8社とともに、「水素ステーションで使える可能なゴムパッキン」の開発を目指しています。常温下で、より密閉性と耐久性を高めるのが研究の鍵となっており、低温域ではほぼ実用化が可能に。地元企業の知恵と技を結集し、ゴムの新たな可能性を追求しています。

更生タイヤ



設立 昭和22(1947)年  
資本金 2,200万円  
本社所在地 久留米市京町5-196  
代表取締役社長 石丸 茂夫  
従業員数 36名  
事業内容 更生タイヤ、工業用ゴム製品、糸ゴムの製造・販売

公式サイトはこちら!

